

2020年10月21日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2020年9月 マンスリーレポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	59,133,019 万円	100.0%	100.7% (106.8%)	57,332,841 万円	99.6% (105.3%)
食 料 品	51,545,721 万円	87.2% (87.3%)	103.6% (108.9%)	50,050,678 万円	102.2% (107.3%)
農 産	8,223,592 万円	13.9% (14.3%)	108.4% (119.0%)	8,001,617 万円	107.0% (117.2%)
水 産	4,707,532 万円	8.0% (7.9%)	106.0% (110.3%)	4,505,858 万円	104.4% (108.5%)
畜 産	6,506,679 万円	11.0% (10.7%)	107.1% (112.1%)	6,320,772 万円	105.6% (110.3%)
惣 菜	5,979,907 万円	10.1% (10.2%)	101.3% (101.1%)	5,790,578 万円	99.6% (99.3%)
日配食品	11,739,207 万円	19.9% (19.6%)	103.5% (108.7%)	11,420,716 万円	102.1% (107.1%)
加工食品	14,388,803 万円	24.3% (24.5%)	99.9% (105.5%)	14,011,137 万円	98.7% (104.1%)
生活関連	3,516,645 万円	5.9% (6.1%)	86.1% (105.0%)	3,435,015 万円	85.6% (104.0%)
衣 料 品	1,096,200 万円	1.9% (1.8%)	73.9% (79.4%)	1,061,564 万円	75.1% (79.8%)
そ の 他	2,974,454 万円	5.0% (4.8%)	88.1% (88.1%)	2,785,584 万円	88.8% (87.3%)

② 数 値

全店総売上高	59,133,019 万円	店舗数	4,849 店舗
総売場面積	9,402,796.0 m ²	総従業員数	262,651 人

店舗平均月商	12,194.9 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,034.1円 (105.0%)
月間m ² 売上(前月)	6.3 万円 (6.9万円)	平均売場面積	1,939.1 m ²
月間坪売上(前月)	20.8 万円 (22.9万円)	パート比率(前月)	77.0% (77.3%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 9月の天候について、気温は北日本と東日本でかなり高く、降水量は台風や前線、湿った空気の影響で西日本の日本海側で多く、日照時間は西日本の太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なかった。台風10号は特別警報級と予想され、交通機関の運休や、企業・小売店などでは休業が計画実施された
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物は、野菜相場が落ち着きを見せた一方、果物は国産品を中心に高値が続いた。水産物は、前年並みの入荷量と卸売価格であった。畜産物では、和牛が引き続き安値となり、豚肉と鶏肉は高値が続いた
- ・ 前年に比べ日曜日と月曜日が1回少なく、火曜日と水曜日が1回多い曜日回りであった
- ・ 新型コロナウイルス感染症は、全国の1日当たりの新規感染者数がおおよそ300～600名で推移したものの、イベント制限緩和やG・O・T・Oトラベルキャンペーンなどの影響があり、人の動きが活発となった。しかし店舗においては来店客数が減っているとのコメントが多く見られた
- ・ 前年は生活関連・衣料品や加工食品などに消費増税前の特需がみられた為、前年同月比を割った

《 商品動向 》

○農産

- ・ 野菜では玉ネギ、ジャガイモなどの土物類や、キャベツ、きゅうり、レタスが相場環境により好調であった
- ・ 果実は、国産果実ではシャインマスカットなどのブドウ類や梨が好調となり、輸入果実ではバナナが好調であった

○水産

- ・ 気温環境によりウナギや刺身類（まぐろ、サーモン、イカなど）が好調であった
- ・ 塩鮭やちりめんなどの塩干品や魚卵、冷凍魚が好調であった
- ・ 不漁によりサンマが不調であった

○畜産

- ・ 牛肉、豚肉、鶏肉、挽肉の好調が続いているが、その一方で動向が落ち着いてきたとのコメントも見られた
- ・ 調理用途別では、牛ステーキや焼肉、豚しゃぶしゃぶ用が好調であった

○惣菜

- ・ お弁当や丼、寿司、天ぷらが好調であった
- ・ お祭りなどの中止により米飯などが不調であった

○日配食品、加工食品

- ・ 気温環境により、チルド麺が好調となった
- ・ 前月までの野菜価格上昇の影響を受け、漬物類や冷凍食品が好調となった
- ・ デザート類が好調となったほか、パスタやインスタント麺も好調であった
- ・ 米や飲料が不調であった

○「秋のお彼岸」の動向について

- ・ 墓参り需要で生花や墓参り関連品が好調であった
- ・ おはぎや団子などの和菓子が好調であった

○「酒税法改正」「たばこ税増税」前の動向について

- ・ 増税前の動向では、たばこが特に好調となり、値上げ直前の月末に販売が集中した
- ・ たばこは商品特性上、値上げ前の訴求をしなかったとのコメントがみられた
- ・ 増税となる新ジャンル（第三のビール）は好調となった一方、増税とならないビールは、前年（消費税率引き上げ前の駆け込み需要）の反動により不調となった